

米国女子チーム、韓国男子チームがトヨタジュニアゴルフワールドカップを制覇

愛知県豊田市（2024年6月21日）

米国女子は2位に11打差をつける圧勝。

その立役者はジャスミン・クーで異論はないだろう。3日間トータルで16アンダーをマーク。昨年、日本に敗れ2位になった雪辱を見事に果たした。

「この大会に戻ってきて勝つことができたのは特別なこと。ゴルフは個人スポーツかもしれませんが、チームが勝つことが何よりも嬉しい」メダルを手取る笑顔にも充実感が滲む。

54ホールでは歴代最少の200ストローク。個人成績でもタイトルを獲得し、大会創設30回の節目に新たな歴史を刻んだ。

男子は最後まで予断を許さない混戦模様。

3日間を終え、韓国と米国はトータルスコア21アンダーで並んだ。

大会レギュレーションでは各日、各国3名のうち上位2名の最少スコアを採用。トップがタイとなった場合は最終日の3人目のスコアが採用されるため、73のジャクソン・バードを71のパク・ジェヒョンが上回り、韓国が2003年以来、2度目の世界チャンピオンに輝いた。

韓国のキャプテン、ホー・ナムヤンは「（2003年以来）もう一度勝つために努力してきたが、なかなか成功しませんでした。再び勝つことができ、とても嬉しい」と選手全員でつかみ取った勝利に目を細めた。

日本男子の松山茉生は最終日を3アンダー68とし、米国のビリー・デイビスに2打差をつけて14アンダー199でフィニッシュ。激しい雨が降る前半9ホールで4つのバーディを記録し、雨が上がった後半は「グリーンが少し柔らかくなり、それがアイアンショットの助けになりました」と手堅くイーブンにまとめ個人タイトルを獲得。ホスト国の意地を見せた。

女子の2位には初出場のタイが入った。最終ラウンドは米国以外の各チームがスコアを伸ばせない中、ピンピサ・ルブロンが71をマークするなど142の2アンダー、3日間合計16アンダーとし日本を上回った。ルブロンは個人でも3位タイに入る活躍。コーチのポンペッチ・サラプティは「私たちは一生懸命努力しましたし、予選を通過して嬉しかった。私たちナショナルチームにとって大きな意味を持つ大会」と上位躍進に手応えを感じた様子だった。

第1日が豪雨のため中止となり、72ホールから54ホールへと短縮された今大会。

「ここにいる皆さんの素晴らしいゴルフスキルと卓越したスポーツマンシップは称賛されるべき」と、大会チェアマンのウィリアム・カーダイクは語る。「さらに重要なのは、各選手が自国の尊厳と名誉を持って代表していること」30回の歴史を積み重ね、大会の“卒業生”たちが世界中のゴルフシーンで活躍している。

表彰式、厳しいコンディションの中、懸命にプレーした選手たちを労うかのように初夏の日差しが照らした。雨のち晴れの今大会。虹の架け橋を渡ったその先に、ジュニアゴルファーたちの輝かしい未来が待っている。